

2023年度 活動実績

はじめに 新型コロナウイルス感染症は5月の連休明けから感染症法上の位置づけが5類感染症に変更され、その対策は個人の判断に委ねられることになり、行動制限が大幅に緩和されることとなった。このためマスク着用者の姿も多少は見られるものの、特段の支障もなく、豊島での活動はほぼコロナ禍前の例年並み・計画どおりに実施できた。なお本年は「瀬戸内オリーブ基金」から支援を受け2年目の活動である。

1. 豊島の活動内容、回数、参加者数 コロナ禍の影響もなく、年度計画の主要活動である田植え、稲刈りには各30人ほどの多数の参加者があるなど、年間活動回数25回、延参加者数は202人とほぼ計画(20回、200人)どおりとなった。詳細は別途「2023年度活動実績一覧表」のとおりである。なお年度当初の正会員は61人、賛助会員は3個人、3法人である。

2. 棚田の保全・景観 4～12月にかけては例年並みの活動回数を確保することができ六角庵周辺や棚田は稲作、畑作、花の栽培、畔や石垣の草刈りを行うことにより、年度を通しほぼ良好な景観を確保できた。また当くらぶの棚田に隣接する下側の棚田の草刈りも実施し、「唐櫃の清水」から瀬戸内を見渡す眼下一帯の棚田の景観を確保することができた。なお次年度も作業日には少しでも畔の草刈り作業ができる時間を確保していく。

3. 主な作物栽培

(1) 稲作 田植えは昨年を引き続き6月末の第4日曜日とした。7～8月の炎天下の田んぼの草取りは、厳しい暑さのためか毎回7、8、3人ほどの参加者であったが予定通り3回実施できた。収穫量は夏場の水不足もなく昨年の180kgより大幅に増え、例年並みの230kgとなった。ちなみに県下の作況指数は7月中旬以降気温が平年を上回る中、8月下旬以降、日照もおおむね確保され、平年を上回る「101」であった。

(2) 小麦 前年11月に畑5枚(2A,2B,3A,3B,7B)に種まきをしていましたが、小麦の乾燥はお米の乾燥機と共用できないことが判明し、各所問い合わせるも小麦の乾燥機の手配が付かなかった。多量に刈り取っても乾燥手段がないことから、畑3Bの1枚のみ刈取り、はぎ掛け・天日干しをして収穫することにし、収穫量は15kgにとどまった。

11月の種まきは例年の品種“さぬきの夢”からもち麦の”ダイシモチ“に変更した。”さぬきの夢“は主に”うどん“に使われ、雑穀米として食用

需要の方が多いという声があり変更した。

(3) 蕎麦 小麦と同じ畑に後作として畑2B,3Bに8月末に種まきをして11月に収穫した。本年の蕎麦は夏場に高温が続いたためか、またほど良い間隔で種まきができ、密集にならなかったのか、例年に比べ茎が非常に大きく育ち、雑草が少ないことから刈取り作業は比較的容易であった。収穫量は30kgである。

(4) レンコン レンコン池としての水の確保が難しいことからレンコン栽培は断念した。

(5) 大豆 「豊島味噌づくり愛好会」の方々と協働し、大豆栽培に挑戦した。畑1Aに作付けしたが、昨年と同様に花が咲き結実するころの水が不足し少量の収穫量にとどまった。次年度は、棚田を縦断する水路側の水の溜まりやすい畑で栽培し大豆に加え、黒豆の栽培にも試行していく。

(6) 花 六角庵前の花畑に種々の花を栽培し、除草もいきとどき季節の彩りを伝える花畑となった。

(7) その他作物 ジャガイモ、タマネギ、ニンニク、サトイモ、サツマイモなど栽培。なお、化学製品の黒マルチは使用しないこととし、刈り取った雑草や稲わらで代用することとしたため、防水・防草効果がやや劣るため野菜の収穫量はおおむね少なくなっている。サトイモは水が十分でなく畑が乾燥気味となりイモが大きくならなかった。

4. その他特記事項

(1) 収穫物の販売 お米、蕎麦粉、小麦粉、ジャガイモ・タマネギなど会員で分かち合い、残りは販売し運営費に充当した。

(2) 豊島巡り 常時、唐櫃岡の活動地で作業をしている棚田くらぶのメンバーであるが、新たに豊島の各所(*)巡りをした。豊島案内人のM氏、地元島民・移住者K氏、S氏、T氏の方々の案内・説明があり地元島民、移住者の方々のご苦労、豊島への思いと豊島の絶景など改めて認識を深めた。参加者は17人(子供2人)である。(*)甲生地区・海岸、唐櫃岡地区・東側展望台・地区内散策、壇山・岡崎公園・頂上展望台など。

(3) 収穫祭他 12月予定の収穫祭は中止となった。蕎麦の刈取りからはぎ掛け・天日干し・脱穀の間に降雨が続き、乾燥・製粉が12月第1日曜日の収穫祭予定日に間に合わず、主食の手打ちそばができないため開催を断念した。なお昨年を引き続き8月の上期報告会、9月のBBQ、1月の新年会などは中止とした。